

研究所だより

第295号
2010年5月25日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

【ほめちから】—松本徳重 著

3, 子どもにやる気と自信を持たせることができます

自信は、過去を振り返ったときの行為・行動が価値あるものだったという認識から生まれます。「君の行動はみんなに良い影響を与えたんだよ」と、子どもを「ほめる」ことは、子どもの行為・行動を価値のあるものと認めることです。それが子どもにとっては自信に繋がります。自分に自信が持て、自分の判断に確信を持てれば、子ども達は自分からやる気をかもしだすようになっていくことでしょう。

ほめ言葉を受け入れるにしても、相手をほめるにしても、確固とした「自信」がないとなかなかできないものです。その「自信」をもとにして、子ども同士で、ほめたり、ほめられたりすることで段々と良い影響をお互いに与え合っていく、子ども達の心の中にやる気を熟成させることができるのです。やる気や自主性は、すぐには出ないものです。自分の行為・行動に自信が持てるようになると、はじめて出てくるものです。

4, 集中力が高まり学習が進むことが期待できます。

授業の中で、たとえ答えが間違っている、「いい答えだね!」「その発想いいね!」と、「間違っている」と切り捨てずに、子どもの発想に価値を見出して、授業の中で「ほめる」ことで、何でも言え、安心して伸び伸びとした授業ができるようになります。間違った答えでも否定されない。積極的に発言をすれば、ほめられる。そういう環境を創ることができれば、授業の中で安心して何でも言え、伸び伸びとした学習ができるようになっていきます。

このように、どの子にも居場所のある授業が展開できれば、授業の中で子ども達は積極的に、色々なことを創意工夫して考えてくれるようになることでしょう。授業に集中させることさえできれば、当然学習も進みますし、子どもの授業への理解も飛躍的に深まることでしょう。

<学級づくり>

授業中は私語が多く、ざわついていて、子ども達が授業に集中していない。休み時間は、ひそひそ話をしている女子グループ、無責任な行動する男子グループなどが見られる。掃除や係活動では、仕事の押しつけがあり、立場の弱い者が損をするような場面が見られる。全体として責任がある行動ができず、色々な活動が低調。学級内に小グループが乱立し、お互いに牽制しあったり防御的になったりして、学級全体の足並みがそろわない。といったような状態がありませんか。子ども達の学級への帰属意識が低い、学級のルールが定着していない、授業・活動などの行動スタイルが子ども達に共有化・習慣化されていないなどの原因から起こってきます。

その対応として、「ルールを守る子」が学級の多数派になるように、ルールを守ってまじめに頑張っている子を適切に評価していく。役割活動で、次のような手順で紹介してみてもいいでしょう。

- ①. 今の学級について思うこと、どのような学級にしたいかを紙に書かせ、集約、確認をする。
- ②. 目標を達成するためにみんなで守るルールについて紙に書く。
- ③. 活動の前に、目的とルールを確認してから取り組ませる。
- ④. 定期的（毎日→週1回→月1回）に振り返り、確認。良い点は大いにほめ、改善は次の目当てとする。



こうした小さな一つひとつの取り組みはすぐに変容があるわけではありませんが、「今日のこの活動」が目には見えないほどの変化で集団を育成していることを知っている教師は、子どもへの指導のチャンスを外さないし、積み重ねをおろそかにはしないのです。併せて学級づくりは

新しい環境の中で子ども達は、不安と緊張に包まれています。同時に、集団の中の自分の位置を見つけようとして牽制しあったりどのような教師か試すような行動をとったりします。人間関係の不安が学級内での孤立や閉鎖的集団の芽に繋がらないように、学級のルール作りと、少人数での活動を通して、学級生活への不安を取り除いていきます。

- ①. 学級のルールをつくる
 - ・係や当番などの役割活動をパターン化する。役割活動の手順を共通理解させる。
 - ・学級の決めごとは、学級全員で確認していく。
 - ・一部の人間関係のトラブルも学級全体に返し、ルール違反の影響を理解させて、定着させていく。個別対応、密室対応で終わらせていると、友だちづきあいのルールを学級全体で理解できず、何度も繰り返される。
 - ・子ども達の試し行動に毅然と対応する。ルール定着のために小さな逸脱行動を見逃さない。ただし、特別な支援を必要とする児童がいる場合は特別な対応をする理由をできる範囲で説明し、理解を求める。
 - ・定着するまでチェックする。ルールが決まっても守られない状況が放置されると「ルールは守らなくてよいもの」という認知を作ってしまう。活動前のルール提示、活動後には守れたかどうかチェックし、ルールを守る意味を感じ取らせる。
- ②. 人間関係の緊張を解く
 - ・教師に親しみを感じさせる。休み時間に一緒に遊ぶなど子どもの活動に教師もできるだけ参加する。
 - ・教師の失敗やミスは、きちんと子ども達に謝罪する。「ごめんなさい」「ありがとう」は、信頼関係を築くための第一歩。
 - ・教師が叱る時を伝えておく。「この先生は、こういうことを大切に考えているんだ」という理解が、安心感に繋がる。
- ③. 学級全体で協同活動に取り組む
 - ・学校行事を好機と捉え、クラス一丸となって協同活動を成し遂げる体験を積み重ね、自信を持たせる。子ども達が人と協力する楽しさを知り、学級がより大きな集団に形成されていくように支援する。
 - ・体験を振り返る場を設け、「友だちあるいは自分のこういう頑張りがあったから、学級全体の成功に繋がったんだ」というように、子ども達が意味ある「経験」として消化できるようにする。